

初興行から百年を記念して

小浜娯楽文化の殿堂の再生へ

旧 旭 座



【 旭座の歴史 】

港町として栄えた小浜は、多くの芸能娯楽文化を生みました。江戸時代の初めには、遠敷舞々村の幸福座が藩から認められていました。また、小浜の三つ松座という芝居一座は、小浜町の西はずれの芝居小屋で興行するとともに、他国から来る芸人の興行権も持っていました。その他、能は各社寺で若狭能倉座が興行していました。江戸時代の終わりには魚屋町（塩竈区）の偕楽庵能舞台においても、度々能や狂言が行われていたようです。

明治時代以後、三つ松座を受け継ぐ八菱座（小浜公園）や、偕楽庵を受けつぐ快樂座などともに、西津の帝国座や西津劇場、小浜駅前の小浜劇場や帝国劇場などが、映画上映も可能な多目的劇場として相次いで設立されていきます。

小浜住吉の旭座もその一つといえます。まず特徴的なのは建築の年代が明らかとなっていることです。残存する明治44年（1911）正月の興行ちらし口上に「劇場中絶以来苦勞の末、昨年（1910）に新築落成し、ようやく元旦より初興行」ということが記されており、その歴史を知ることができます。建物の構造等も、明治時代後期の特徴をよく残しているとともに、古材などを多用している点は、復興新築であることを裏付けています。

旭座では、数々の興行が行われるとともに、文化人や政治の公演、品評会なども行われ、昭和以後は、新生劇場として映画の上映も行われました。特に、田植えが終わったサツキヤスミには特別興行が行われ、市内各地からの多くの客でにぎわったことが当時の新聞などから確認されています。

戦後、しばらくの営業後は、自動車工場・倉庫として再利用されてきました。内部は倉庫として改変されてしまっていますが、市内に複数あった芝居小屋・劇場の中で唯一その姿をとどめる貴重な建物として近年注目されています。



旭座古写真



現在の旧旭座

【 旭座の構造と残存状況 】

所在地 小浜市小浜住吉 1 8

構造 木造入母屋造瓦葺平屋建て

規模 建築面積 約 3 0 0 m² (間口約 1 1 m [6 間] ・奥行約 2 8 m [1 5 間])

建物自体の軸組み・屋根廻りは、ほぼ建築当初のものを良好に残しています。奥にある舞台部分は天井を設けずに和組みとし、大きな梁をみせるとともに、高い2階席のラカン台を残しています。舞台は取り払われていますが、軸組みに良好な痕跡を残しているため、ほぼ完全に復元が可能となっています。

客席部分はトラス組みの軸部を天井で覆い、中央に立派な電気器具があったであろう小組格子を残しています。花道や枱席は撤去されていますが、現況の痕跡や当時の芝居小屋建築の通例から容易に復元が可能です。また、2階棧敷席を上手、下手ともに残しているのも貴重といえます。

芝居小屋の顔ともいえる正面は、木連格子に旭のマークをあしらい、波の形をあしらった棟瓦によって、町並みから一線を画したシンボリックな姿に仕立てています。



舞台上の小屋組みとラカン台



客席天井の小組格子と電気器具跡



客席 (上手2階棧敷席)



軸組みの良好な痕跡

【 旭座の価値 】

全国に 3 0 0 0 を越える数があったといわれる芝居小屋も、現在 3 0 数か所しか残っていません。福井県内では唯一残存するもので、その希少価値は高く、建物の軸組みや痕跡が良好に残っており、規模は小さいが完全復元が可能な建物として貴重です。

また、小浜の風俗を知る近代化遺産として現在の芸能文化と一体となり活用できます。